



小田小だより

平成26年 7月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号

TEL 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校



じっと待つことと褒めること ～もうすぐやって来る夏休みに思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

梅雨明けが待ち遠しい毎日です。子どもたちは、梅雨の合間を縫って行われる水泳学習や前期前半の学習のまとめにがんばっています。梅雨が明けるところには夏休みが待っています。きっと夏休みへの期待に胸をふくらませはじめていることでしょう。

夏休みは子どもたちと顔を合わせる機会が増え、どうしても小言が増えてしまうことになりがちですが、日頃あまりできない親子の会話、コミュニケーションを深めていただければと、思います。

そこで、大切にしてほしいことを二つお話いたします。

一つ目は、「待つ」ということです。相田みつを氏の作品に「待つ」という詩があります。



待 っ 待ってもむだな ことがある 待っても むなしきことばかり	↘	待ってもだめな ことがある それでもわたしは じっと待つ
--	---	---------------------------------

草花や農作物を育てることが上手な人は、待つことが上手な人だということを聞いたことがあります。待っていることに喜びや楽しみが感じられる人ということでしょう。

子どもたちも同じではないでしょうか。雨の日に傘を持たずに出かけた子どもを駅の改札口で待つこと、約束した時間に帰らない子どもを時間を気にしながら待つこと、やっちはいけないことばかりする子がやらなくなるのを待つこと・・・子どもを育てるのは、そうしたことの積み重ねのような気がします。

なかなか「結果」を出せない子どもを待つには、辛抱が要ります。私たちはつい目の前の「結果」ばかりに目を奪われてしまうからです。でも、子どもたちはそう都合よくは育ってくれません。勉強をしない、友達をつくれぬ、学校に行きたがらない・・・なかなか一步を踏み出してはくれません。でも、今は「休息」の時間なのかもしれません。それならば、「休息」が終わるのを静かに待ってあげていただけませんか。はた目には待っていることが無駄なように見えても、子どもを信じて待つことに喜びを感じられるような親になっていただけないでしょうか。

二つ目は「賞賛する」ということです。齋藤孝氏が、著書『1分で大切なことを伝える技術』の中に次のような一節を記しています。

「一見して褒めどころのない人を褒めるには、視点を変えること、結果ではなくプロセスで評価すること、表現を変えるなら、絶対量ではなく、変化率で褒めることである。」

齋藤氏は、「賞賛の文化」を提唱しているのです。人を褒め、励ます文化です。

よく発言はするが、口先だけの印象を受ける人に対して、世間は普通「軽々しい」「無責任」だと評価します。ですが、これも視点を変えれば「アイデアが次々に出るね」と評価できなくもありません。慎重になりすぎて何も言わない人より参考になるものがある、こう考えるのが「賞賛の文化」への第一歩と言えるでしょう。

さらにもう一つは結果偏重への自粛です。確かに事を成していい結果が出るにこしたことはありませんが、それは全て結果待ちの姿勢で人に対することになります。子どもが部屋を片付けた時、「部屋がきれいだね」と結果を褒めるのと、「片付け上手ね」と、そのプロセスを褒めるのとの間には大きな差があります。

絶対量ではまだ目標に達しなくとも、昨日よりも今日の方が少しでも改善されていれば、明らかに変化率の向上です。そこを認めて褒めていただけないでしょうか。明日の変化率アップつなげていただきたいのです。それこそが、「賞賛の文化」創世への方策なのですから。

子どもの自主性や自立心は、「待つ」とことと「褒める」とことによっていつか必ず育っていくと思うのです。

体調や事故に気をつけて、8月27日には子どもたち全員が一段とたくましく元気な姿で集うことを楽しみにしております。保護者の皆様、地域の皆様、どうぞよろしく願いいたします。